

あの子にはとても及ばない  
道を歩くひと歩くひとの顔を覗き込む  
会はずもないとおくの場所に行っても  
特徴がなく同じひとはたくさんいる  
どの場所も少し早くに発つ  
期待をしてかける声というものは  
出した途端真下に落ちていったり  
逆に頭を突き抜けてしまったりする  
ちようど相手のいる地点  
ちようど相手のいる高さに  
差し出せるように息を吸う  
油絵の匂いに眉をひそめる  
ひとかたまりの声は  
ごぼごぼと喉からこぼれて行って  
引き出しにしまわれている  
スベアの眼鏡と同じで  
存在していることがだいじだと思ひこむ  
吹き飛ばされても寡黙に鎮座して  
書類をせき止めている  
ブックエンドのおかげもあり  
かろうじて部屋の崩壊は免れている  
律儀にお役目を果たす  
品々をおきさり  
あの部屋とあの街とあの地球を抜けて  
すこしはやくにたつように  
裏周りするつもりだから  
わたしその光線と同一になりそう